

漢字ドリル・漢字テスト

京都市立向島二の丸小学校教諭 山田 俊夫

大多数の小学校で、計算ドリルや漢字ドリルを購入し、日々の学習や宿題に活用されていると思います。そんな中で、現在の国語の学習時間と漢字学習の考え方、1年間を通しての漢字学習の進め方とそれに伴って見えてくる児童の姿について、気づいたことや常々留意していることについて整理してみたいと思います。

なぜ、「計算ドリル」ではなく

「漢字ドリル・漢字テスト」なのか

毎日の学習の中で、計算ドリルと漢字ドリルを活用したスキル習得の学習や家庭学習（宿題）での復習をされている方は結構おられると思います。かく言う自分自身もそのひとりなのですが、ウエイトのかけ方が計算ドリルを3とするならば、漢字ドリルは7ぐらいになっていると思います。バランスが悪いと言え

れまでなのですが、6年生になって児童の学力実態を見た場合、計算の能力に関して言えば、スピードにおいても正確さにおいても児童間の格差が大きく、低学力傾向にある児童は「やる気」を失ったり、負担が大変大きかったりするために、学習を途中で投げ出してしまったり、やり終えたけれども疲労感だけが残り満足感を得られないといった傾向が多々見られてきました。このことは、自分ではできないという自信喪失や、他教科への意欲低下につながります。

そこで、6年生の段階において学習意欲の低下した児童に、いかに学習意欲を喚起させるか、いかに無くなった自信を取り戻させるか、いかに学力を定着させていくかを考えた場合、漢字ドリルの繰り返し学習と漢字テストの方が有効ではないかと考え、漢字ドリルと漢字テストを重視

した取り組みを進めてきました。

本学級における

漢字学習の進め方について

本学級における漢字学習の基本パターンは、「漢字ドリル」で新出漢字や新しい読み方の漢字の練習をし、次に「漢字の学習ノート」を活用して、繰り返し練習や言葉作り・意味調べ、文章作りをし、1単元終了するごとに10問の漢字テストを行うという進め方をしています。ただし漢字テストを実施する前には、児童に宿題でノートに2回ずつ文章を書き写してくる宿題を出しています。そして、テスト終了後には間違えた漢字や文章について、テスト裏面の方眼を活用して練習するというパターンを採っています。

具体的に1学期「森へ」を例に取り説明すると、漢字ドリル2〜8の練習で1日、漢字の学習ノートの練習では1日2文字ずつ進めて11日、漢字テストのノートへの2回練習で4日（ここでは漢字テストが4枚）の計16日で学習が完結するという計算です。

別表①の通り、4月から7月にかけての漢字の学習は、87日かかる

ことになりましたが、実際には4月から7月までの授業日数は本学級の場合68日でした。そこで、本学級での進め方としては、毎日の宿題として算数に関わる宿題を1テーマ、漢字の学習ノート1日2文字、そして漢字ドリルもしくは漢字テストに向けてのノートへの練習2回、と3本立てで進めるようにしました。こうすることで、4月から7月にかけて、基本サイクルを1周は達成できます。さらに、今年度より本校は二期制に変わり、評価が10月まで待てますので、漢字テストについては2週目に挑戦することができます。1度実施した同じテストを2度挑戦することができますので、1回目より高得点を期待でき、それに伴ってやる気を引き出し、「ぼくや私もやればできるんだ」という自信を復活させる手立てにもなります。別表②のような集計表を作成し、漢字学習に取り組んできました。

別表①< 1 学期単元一覧表 >

単元名	漢字ドリル	漢字の学習ノート	ノートへの練習	合計
森へ	1	11	4	16
「聞く」ということ等	1	5	2	8
短歌・俳句を味わおう等	1	2	2	5
火星に生命を探る	1	8	4	13
敬語の使い方	1	9	2	12
ガイドブックを作ろう等	1	7	2	10
学級討論会をしよう等	1	4	2	7
イーハトーヴの夢等	1	11	4	16
	8	57	22	87

別表②< 漢字の力だめし集計表 >

平成 16 年度

6 年 1 学期 漢字の力だめし集計表

()

番号	単 元 名	ドリル番号	1 周目	2 周目
1	森へ	10-①		
2	森へ	10-②		
3	森へ	12-①		
4	森へ	12-②		
5	聞くということ 問い合わせの手紙	16-①②		
6	短歌・俳句を味わおう 似ている漢字	20-①②		
7	火星に生命を探る	25-①②		
8	火星に生命を探る	27-①②		
9	敬語の使い方	35-①		
10	敬語の使い方	35-②		
11	ガイドブックを作ろう	41-①		
12	ガイドブックを作ろう	41-②		
13	学級討論会をしよう やまなし	45-①②		
14	イーハトーヴの夢	53-①		
15	イーハトーヴの夢	53-②		
16	イーハトーヴの夢 「作家と作品」展示コーナーを作ろう	55-①②		
	合 計			
	回 数			
	平 均			

漢字学習・漢字テストより見えてきた児童の姿について

この漢字の進め方に取り組んで3年になりますので、ここからは過去2年半の取り組みを振り返って、見えてきた児童の姿について述べていきたいと思います。

全体的に見て、1回目より2回目の方が、当然点数が上がってきます。1回1回の点数では見えにくい伸びが、集計表の平均を見ることで実感できるようになります。

A児は、4〜7月の1回目は平均48点でした。しかし2回目は平均77点まで上昇し、8月からの現段階での平均は87点です。4月よりまじめに取り組み、この取り組みのサイクルを理解し、日々取り組みむことで安定した点数を取ることができるようになってきています。

また、B児は4〜7月の1回目は49点でした。2回目も5.1点とそれほど点数の向上は見られませんでした。8月からの現段階の平均は7点と、回数を重ねることで、点数の上昇が見られるようになりました。

C児は、多少の波はあるものの、大体いつも8〜10点の間を取っているのですが、あるとき4点と、日常の姿からは考えられない点を取った

ことがありました。気になったので、C児と話をしてみると「友達とうまくいっていないので、集中して学習する気になれなかった。」ということが分かりました。

以上、3名の児童の例からも分かるように、漢字学習、漢字テストを日常的に実施し、集計表で記録を積み重ねていくことで、児童ひとりひとりの学習パターンや伸びの様子、いつもと違う変化までもが見えてくるようになってきます。

低学力克服と基礎学力の定着について

漢字学習と漢字テストを繰り返し行い、毎回の記録を集計表で個人ごとに把握することで、今まで以上に児童のその時々々の姿が鮮明に浮かび上がってきます。その記録について

児童と共に語り合うことで、伸びてきている児童には自信を植え付ける良い機会にもなりますし、落ち込んでいる児童には生徒指導上のことや家庭環境上の変化や悩みを聞く機会にもなります。また、個人懇談会の折りに、保護者と集計表を前にして子どもの姿を語ることで、より具体的な姿や変化を伝えることができます。

D児は、4〜7月1回目のテストは41点でした。2回目も54点と点数的にはあまり伸びが見られませんが、それ以上に課題が見られたのは、1回目は16回のテストのうち受けたのは11回と、生徒指導上の問題や家庭環境上の問題から欠席の多い姿が浮かび上がってきました。能力的には10点や8点を取ることもあったので、集計表を前に児童や保護者と共に話し合い、2回目は点数的には伸びが見られること、2回目は16回のテスト全てを受けられるようになってきたこと、宿題をきちんとしてきた時には高得点を取ることができ、忘れたときには芳しくないことなどを伝えました。こうした取り組みと保護者の協力、児童のがんばりの結果、8月から現段階の平均点は8.3点にまで上昇してきました。

最後にE児の保護者と懇談した折りのことですが、保護者から「漢字だけは自信を持って取り組むことができるようになりました」と伝えられたのですが、私の目には、漢字をはじめとして様々な面で積極性が出てきており、今まで苦手としていたために投げやりであった算数にも「分からない。分からない。」と言いつつながら一生懸命に取り組んでいる姿が映っていました。漢字学習と漢字

テストを2年間繰り返すことで、学習のパターン、学習の進め方を学び、成果が目に見える形で児童自身の中に蓄積され、「自分もやればできるんだ」という自信を取り戻していったのだと思います。そして、この自信が他の教科や生活の様々な場面において、心構えの「基礎」となり、良い意味での波及効果を生み出したのではないかと思います。

この取り組みを通じて、低学力の克服と基礎学力の定着だけでなく、日々の児童の姿をつかみ、児童理解・児童把握を深められたと考えています。